

株式会社日乃本錠前

One Teamで世の中を明るくする 「カギ」は知財への取り組み

簡単で優秀な技術である「簡秀技術」をモットーに創業時から長年にわたって蓄積された技術やノウハウを用いて鞆やスーツケース類の錠前、キャスターなどの付属パーツの開発を行っている。また、海外でも圧倒的なニッチトップを目指し品質の向上とともに業界をリードする新製品の開発にも注力。中国を中心としたアジア市場での販売強化にも挑んでいる。



HINOMOTO JOMAE, LTD.
代表取締役社長：田中 常隆さん（後中）
執行役員 開発部 部長：大高 正志さん（前中）
開発部 次長：前坂 伸二さん（後左）
開発部 係長：吉田 知弘さん（後右）
総務部 課長：境田 二也さん（前右）
総務部：岡本 洋一郎さん（前左）

主な権利

2018年：特許 第6383718号
2020年：商標登録 第6296723号
2020年：特許 第6701058号
2020年：特許 第6815045号
2021年：商標登録 第6373013号

会社概要

所在地：東京都北区西ヶ原1-19-19
電話：03-3910-5553
URL：http://www.hinomotojomae.co.jp
業種：鞆・スーツケース類の錠前、及び各種付属パーツの開発・製造・販売など
創業：1932年（昭和7年） 資本金：3,000万円



日常的に使われるさまざまなアイテムの信頼できるパーツとして、同社の製品が使用されている。



南京錠やランド錠、シリンダー錠などを幅広く開発。南京錠にはアメリカ運輸保安庁認可の製品も多い。



三菱ケミカル社と共同で開発した「Lisof®(ライソフ)」素材を用いた「SILENT RUN®」キャスターは、スーツケースを軽くして静音にできる。



チェアハンガー「服の神®」も同社が開発したアイデア製品。椅子の背もたれにワンタッチで取り付けられ、脱いだ上着をきれいに掛けられる。

鍵から広がる匠の技が 世界に広がりブランドを確立

株式会社日乃本錠前。この社名からも歴史の重みを感じられるように、1932年の創業からさまざまな時代の要望に応え、幅広く「鍵」を開発し提供してきた。やがて鍵から広がる匠の技は、ランドセルのパーツやスーツケースのキャスターなど、特に信頼性が必要とされる重要な部品にも広がった。同社のキャスターを使ったスーツケースは、その品質の高さから世界中に認められ愛用者が拡大。他のパーツ類も製品は高品質で決して値が張らず、とても使いやすい。そして確立されたのが「HINOMOTO®ブランド」である。匠の技は、こうして世界にも広がった。

産業用・建築用の製品も開発しているため、現在の売上比率は、産業機器・建築分野、スーツケース分野、ランドセルなどの他の鞆分野がそれぞれ3分の1ずつほどの割合となっている。同社が「世の中のカギ」となり、産業創出に貢献したいという想いは、着実に実現している。

知財のことを知らなかったと 知ることができた貴重な経験

知財センターとはここ数年の関係で、ニッチトップ育成支援を受けたのは2018年から。総務部の境田課長は「知財センターのアドバイザーが私たちの会社に詳しくなっちゃったんです（笑）。それで、いつも楽しそうにされている。ですから私たちも『知財って、面白いんだ』と感じて、ぜひ学びたいという意識が高まったと思います」と語る。これに執行役員であり開発部の大高部長が「何か尋ねると、的確な回答とそれに関連して参考になることを教えてもらえるので、どんどん質問するようになりました。設計の立場としても、ありがたかったです」と続けた。

開発部の前坂次長は「知財の話をしていろいろと聞いているうちに、逆に『今まで知財のことをこんなに知らなかったんだ』という発見ができましたね。相談して気付けられたことも多いですし、今までずいぶんもったいないことをしてきたとも感じました」と語った。

知財のインデックス化により 価値ある情報共有を実現

「知財は面白い」と感じる気運は若手にも広がり、多くの社員がセミナーに参加した。「知財の知識が得られ、全社的に大きな底上げができました。設計しながら自分たちで調べられるようになり、動き方も分かってきた。そうすると、さらにその先の勉強もしやすくなります。開発そのものにも良い効果があると期待しています」と大高部長。

開発部のメンバーが多く参加したニッチトップ育成支援には、総務部も積極的に関与した。アドバイスを受けながら知財管理のシステムを導入するとともに、同社が有している知財をインデックス化して整理した。これによって改めて、会社がどんな知財を持っていてそれにどんな意義があるのか、社員みんなが知ることになる。この精細な整理作業を行った総務部の岡本氏は「基礎的なことから学べたことが、新たな知財管理につながりました。また、管理に関することだけで

はなく、特許侵害に対してどう対処すればよいかなど、具体的なこともたくさんアドバイスしてもらいました」と語る。

特許にこだわらなくても 著作権でも有効な場合がある

同社がスケールハンドルと呼んでいる、スーツケースに付ける重量計測ハンドルがある。これによって、どれくらい収納したかを簡単に計測でき、重量制限を事前にクリアできる便利なものだ。この特許を国内では出願していたが、中国で模倣品が出回ってしまった。開発部の吉田係長は「どう対応したらよいかアドバイザーに何度も相談し、結果として中国で著作権を取得して解決しました。権利を取るにおいても、特許以外でもいろいろやり方があることを学びました。また、模倣される可能性のあるものは海外でも積極的に知財を押さえる必要があるという教訓にもなりました」と語る。これによって取引先のスケールハンドルが同社の製品に切り替えられ、ビジネス上の利

益にもつながったという。

日本品質と知財をセットに 世界に対して胸を張りたい

仕事の進め方にも良い変化が生じた。大高部長は語る。「開発のプロセスの中に知財が組み込まれるようになりました。また、今までは弁理士任せで具体的に指示することができませんでしたが、今回の支援で権利化のコツまで教えてもらったので、知財意識が高まって具体的な感覚までつかめるようになったと思います。さらには開発者だけではなく営業のメンバーも、いつも話しながら製品の価値を共有しているだけあって、知財に大きな関心を持ってもらっています」また境田課長は「魚を料理して食べる

やり方ではなく、魚の捕り方を教えてもらったと思っています。今は総務で知財検索のスキルアップを図る目標を立てて、そのノウハウを全社員に説明する計画を持っています。これからは社内に対して『魚の捕り方』を伝えられる人になりたいですね」と具体的な抱負を語った。そして、こう続けた。「私たちはパーツ屋ですが、取引先には世界的な鞆メーカーもあります。Designed in Japanで磨き上げた日本品質を全世界に届けていく製造業者として、知財においても責任を果たしていきたいです」

One Teamであることが端々から感じられる会社であり、今後も楽しみながらみんなで元気に明るく知財に取り組み、社会の人々に喜ばれたいという気持ちが伝わってきた。日乃本は、快晴である。

知財センターから

他社の知財や製品の調査・分析にも注力

今回の支援とコロナ禍を契機に、これまで培った技術と知財を活用して、他の産業分野への製品展開による既存事業の保護と拡大を狙いました。また、知財意識が高まり、他社の知財や製品の調査・分析にも注力しました。今後は知財を活かし、HINOMOTO®キャスターの如くスムーズかつ確実に前進できる会社になるでしょう。 担当：水戸部アドバイザー